

アジア諸国での観光誘客

観光事業者等と連携

効果的なPRを展開する

山口 政哉

(市民クラブ藤沢)

誘客が期待できる。今後も、国際旅行博に観光事業者等と連携して、PRブースを出展するとともに、SNSや現地フリーペーパーの活用など、効果的なPR方法により誘客を図っていくとともに、アジア他国への取り組みについても、機会を捉えて、神奈川県や他団体と連携する中でPRしていきたい。

住民の移動円滑化 公共交通機関と連携

清水 竜太郎

(民主クラブ)

環境に優しいまちをアピールするため、江の島のパークアンドライド方式採用など、自動車利用を抑制し、公共交通機関の利用を拡大することが重要と考えるが、観光客利用増大による地元住民への影響が懸念される。特に江ノ電の



タイ国際旅行博の出展ブース

り、実験の結果を注視していた。当日、鎌倉駅の優先入場は行われなかったが、今後本市としても、利用者の負担の軽減に向け、混雑緩和等の課題解決を図るため、江ノ島電鉄と協議を進めていきたいと考えている。

学校教育の相談対応 情報提供の徹底を

阿部 すみえ

(藤沢市公明党)

本市には学校教育相談センターが設置されており、個別相談や就学に際して支援計画を作成ができることなど、その存在や役割は意外に知られていない。不安を抱える保護者のために、家庭訪問など個別に

商店街の活性化 地域貢献事業を支援

桜井 直人

(市民クラブ藤沢)

商店街の活性化に努める。また全家庭への効果的なリーフレット等の配布については、さまざまな困りごとを抱える児童生徒の支援の方策等について記載している「藤沢の支援教育」リーフレットを全家庭に配布して、その趣旨が各家庭に伝わり、通級指導教室や学校教育相談センターについても周知が図られるよう、学校の状況に合った配



再整備について検討が進む鵠南小学校

商店街の地域での存在価値を高め、商店街や店舗の活性化にもつながることから、今後さらなる支援に努める。

鵠南小学校再整備 住民らの意見聴取を

山内 幹郎

(日本共産党藤沢市議会議員)

鵠南小学校再整備の調査、意見等の聴取については、現在、隣接している鵠南小学校、辻堂小学校とも基本構想の合意を得るために、津波の被害等が想定されることから、住民への新しい情報の周知と、同校の通学者や入学予定者の保護者を対象にした学校選択や近隣の施設設置希望の有無も含めた詳細な調査と意見・要望を集約すべき

この機会をまちの元気につなげるための取り組みについて、市の考えを聞きたい。スポーツの国際大会等を本市の活性化につなげるためには、健康増進施策の一層の推進とスポーツを気軽に楽しめる環境整備を図る。②スポーツイベントの関わりの中で得られた人の和やマルチパートナーシップの経験が、ボランティア活動や市民活動の活性化につながるよう取り組む。

マルチパートナーシップの推進 国際スポーツ大会 藤沢の未来を創造する

吉田 淳基

(ふじさわ湘風会)

2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック、そして2021年ねりんピックと、県内及び本市を会場に、スポーツの国際大会等が3年連続で開催される。

ふじさわ教育大綱 人の和で推進する

味村 耕太郎

(日本共産党藤沢市議会議員)

昨年本市の教育大綱が策定されたが、教育の自由と自主性を守るべきと考える。子どもたちにとって育つてほしいのか、教育が活性化するように取り組む。以上3つの視点があると考えている。

市民会館再整備 機能集約等を検討

井上 裕介

(市民クラブ藤沢)

市民会館の老朽化が進む中、再整備に向けて検討を早急に始めるべきと考えるが市の見解を聞きたい。

今後、保護者や地域の方々の意見を十分に伺って、基本構想の策定を進めていく。また、将来的には本市でも少子化が進み、児童数が減少していくと見込まれており、新設校の設置は考えていない。

石川方面のバス路線 2年後の新設目指す

原 輝雄

(無所属クラブ)

湘南ライフトアウンのバススターミナルの整備が進む中、石川地区方面へのバス路線の新設の検討状況を聞きたい。

石川地区方面へのバス路線の新設は、バス事業者とともに利用者の利便性、停留所位置、辻堂駅方面への乗り継ぎ等の詳細な検討を重ね、警察協議、地域説明会に取り組みしてきた。運行開始時期は、バス停設置のための歩道改良工事、路線バスの停止と発進により、再整備方針として、民間資金導入も視野に入れ、周辺施設の機能集約や複合化を検討していく。